

MOCX NEWS

Vol.2
2025.08

「愛着ある土地を、愛される場所にしたい」オーナー様の想いに応える土地活用事例

北海道版



MITSUI HOME



1



2



3



4



5

1. 梱包機や梱包材などの在庫を保管するのに十分な広さがある倉庫。トラックへの積み下ろしをするスペースは3.5mの天高を確保しました。2. 日中は明るい日が差し込む事務所スペース。以前の事務所よりも格段に広くなり、今後の会社の発展にも対応できるように。OAフロア仕様で見た目もすっきりとした印象です。3. 札幌支社のスタッフが一同に集まることも可能な大会議室。大規模なプレゼンにも活躍しそうです。この他に商談などさまざまな用途に利用可能な6名収容の小会議室も2部屋用意しています。4. 重要な打ち合わせの際に重宝しそうな応接室。箔押ししたクロスがアクセントになっており、高級感がありながらも重苦しさを感じさせません。5. 以前は応接室との兼用だった女性用の休憩室。入口はスマートロックでセキュリティ面も安心です。

INTERVIEW

社員の意見を反映した理想の新事務所 快適な環境はモチベーションや作業効率アップに直結

「以前は築50年以上の古い建物で、夏は暑く冬は寒い、雨の日や春先は雨漏りで1階の倉庫の1/4が使えない状況でした」。旧事務所の厳しい状況を振り返る、包装用機械を取り扱う「ストラパック株式会社」の菅原支店長。いよいよ老朽化が無視できなくなり、建物のオーナーは建て替えを決断。そこで、居抜きでの事務所移転を検討しましたが、十分な広さがある事務所、トラックへの積み下ろしが容易な倉庫、10台分の駐車場という3つの条件をすべてをクリアする物件は見つからず、物件探しは難航。最終的に下した決断は、自社で理想の事務所を建設することでした。

2025年1月に完成した木造2階建ての新事務所は、2階に主要な事務所機能を集約し、1階に商談用の会議室と倉庫を配置。屋外駐車場は十分なスペースを確保して、ロードヒーティングも設置しました。「入念に打ち合わせを重ね、社員の意見もプランに落とし込みました。完成した新事務所には社員一同満足しています」と菅原支店長。以前は応接室が1部屋しかなく、女性スタッフの休憩室としても兼用されていたため、取引先との打ち合わせに使う際はスケジュール調整に苦慮。現在は15名以上収容可能な大会議室に加え、商談や面談で使える小会議室を2部屋、さらに応接室を増設。女子休憩室もロッカー室を併設した独立した空間として整備しました。また、事務所や会議室はOAフロア仕様にし、各所に大き

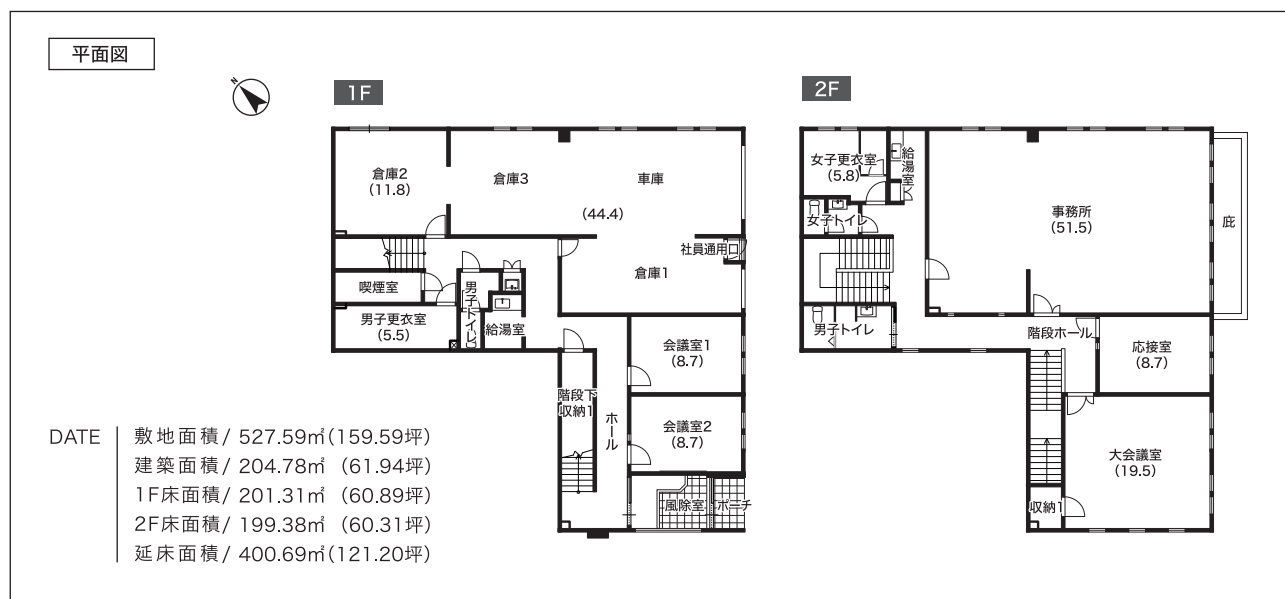
な窓を設けることで明るいオフィス空間を実現しました。

事務所の真下には、倉庫と作業場を配置。床には傷や汚れに強い厚膜の床塗装を施し、メンテナンス作業を行うスタッフの負担軽減のため、エアコンも設置しました。また、倉庫内はトラックを格納して積み下ろしができるよう、3.5mの天井高を確保しています。事務所の下に作業スペースがあると騒音が気になるところですが、「事務所にいても作業音やシャッターの開閉音はほとんど聞こえないですね」と菅原支店長。三井ホームならではの高气密な木造建築は、遮音性も抜群。また高い断熱性能と第1種換気システムを備えているため、冬は暖かく夏は涼しい、常に空気がクリーンな快適な環境が構築されました。

新事務所稼働から半年、社員の皆さんのモチベーションや作業効率の向上などプラスの影響が早速表れているようですが、思わぬ波及効果も。「若い人材の採用面でプラスに作用しています。以前は、いくら好業績をアピールしても、面接に来る方が怖気づいてしまうような、くたびれた建物でしたからね」と笑う菅原支店長。新たな拠点は、会社の今後の成長に大きく寄与してくれそうです。



菅原支店長



「愛着ある土地を、愛される場所にしたい」

土地活用は三井ホーム

三井ホームの提案する土地活用は、さまざまなオーナー様の想いに応え

将来の希望を紡ぎだすオーダーメイドのプラン。

オーナー様にとって愛着のある土地を収益性だけでなく、エリアニーズ、次世代への継承、環境などあらゆる面から最適な土地活用をご提案し、いつまでも愛される資産に高めます。

MOCX Green Buildings

三井ホームの木造建築

人が集う場所にこそ、木造建築のあたたかみと安心を。



憧れを、かたちに。



三井ホーム

三井ホーム北海道株式会社

〒001-0010 北海道札幌市北区北10条西2丁目1番地2 TEL.011-729-2431 FAX.011-729-2428